

神さまは、みんなのことが大好きですよと、語り続けています。

だからこそ、神さまは、みんなが悪から守られるように十戒をお与え下さいました。そして、神さまを知り、神の恵みに生きることが出来るように、礼拝に招いていて下さいます。礼拝では、神の御言葉である聖書が読まれ、メッセージを聞きます。今日も聖餐式が予定されていますが、洗礼と聖餐があります。そして、私たちはいつでも、神さまに祈り求めることができます。

このことを学んできましたが、今日からは、私たちのことが大好きで、救って下さった神さまがどのようなお方であるか、ということ学んで行きたいと思えます。

今日はその最初です。一番最初、神さまは何をされたのか？ みんなが生まれる前です。先生も生まれていません。最初に神さまは天と地を、そしてみんながいる地球を創って下さいました。どのように創られたのかということが、創世記の最初に記されています。

1:1 初めに、神は天地を創造された。

1:2 地は混沌であって、闇が深淵の面にあり、神の霊が水の面を動いていた。

1:3 神は言われた。「光あれ。」こうして、光があった。

1:4 神は光を見て、良しとされた。

神さまは、6日にわたり言葉で天地万物をつくって下さいました。

第一日、 光と闇

第四日 太陽と星、季節

第二日 地(陸)と海

第五日 魚、鳥

第三日 草や植物

第六日 家畜(動物)、人間

そして、最後にこのように語られています。**神はお造りになったすべてのものを御覧になった。見よ、それは極めて良かった。夕べがあり、朝があった。第六の日である。**

そして第七日目に神さまは安息し休まれます。

私たちは神さまが創って下さったすべてのものの中に生きています。だからこそ、神さまがいなければ、私たちも生きることはできません。だからこそ、神さまが七日毎に休まれ、神さまを礼拝する日として下さったのだからこそ、私たちも毎週日曜日に、教会に来て神さまの御前で礼拝を献げます。

神さまは、みんなが礼拝に集ってくれることを、喜んで下さいます。

お祈りしましょう

神さま、今日も私たちが教会に来ることが出来て、神さまを礼拝することが出来ましたことに感謝します。すべてを創られた神さまが私たちをもお造り下さり、私たちに命をお与え下さいます。今日も、神さまに感謝して、礼拝を献げ、生きる喜びを確認することが出来ますようにしてください。

このお祈り、イエスさまのお名前によってお献げします。 アーメン

神さまは、みんなのことが大好きです。

だからこそ、みんなが神さまから離れることなく、神さまと共に歩んでもらいたいとの思いで、十戒、礼拝（御言葉、礼典、祈祷）が与えられていることを確認して来ました。

そして、先週から、神さまが、どのようなお方であるか、ということを知り始めました。神さまがみんなのことが好きだから、一緒にいたいのであり、神さまもご自身のことを、みんなに理解してもらいたいのです。

先週、神さまが、天地万物を造られたことを学びました。「それは極めて良かった」のであり、すばらしいものとして、造られました。この時、最後、つまり第六日目に、私たち人間も造って下さいました。この時、神さまはこのようにお語りになりました。

- 1:26 神は言われた。「我々にかたどり、我々に似せて、人を造ろう。そして海の魚、空の鳥、家畜、地の獣、地を這うものすべてを支配させよう。」
- 1:27 神は御自分にかたどって人を創造された。神にかたどって創造された。男と女に創造された。
- 1:28 神は彼らを祝福して言われた。「産めよ、増えよ、地に満ちて地を従わせよ。海の魚、空の鳥、地の上を這う生き物をすべて支配せよ。」
- 1:29 神は言われた。「見よ、全地に生える、種を持つ草と種を持つ実をつける木を、すべてあなたたちに与えよう。それがあなたたちの食べ物となる。」
- 1:30 地の獣、空の鳥、地を這うものなど、すべて命あるものにはあらゆる青草を食べさせよう。」

また2章では、次のようにお語りになりました。

- 2:7 主なる神は、土（アダマ）の塵で人（アダム）を形づくり、その鼻に命の息を吹き入れられた。人はこうして生きる者となった。

ここに大切なことが記されています。

→特別な存在

- ①神にかたどり、神に似せて造る。その鼻に命の息を吹き入れる。→生きる、死なない
- ②男と女に創造された。→死、おかま等、罪の結果
- ③すべてを支配せよ。→正しく管理（力ではない！）
- ④あなたたちの食べ物となる。→肉は食べない

神さまは、私たちを、特別な、大切な存在としてお造りくださいました。だからこそ、私たちも、神さまのことを知り、神さまを信じていただきたいと思います。

神さま、神さまがすべてを造られた時、人間を特別に愛し、特別な存在に造って下さりありがとうございます。私たちは、罪の故に神さまから離れましたが、なおも神さまが私たちを覚え、救って下さったことに感謝します。

イエスさまのお名前によってお祈りします。アーメン。

神さまは、みんなのことが大好きです。それは、神さまが私たち人間を特別に、祝福されたものとしておつくりくださったからです。

神さまが、最初に人を造られた時、人はいつでも神さまと交わり、恵みに満ちていました。喜びで一杯でした。苦しいことも、悲しいこともありませんでした。

ただ、神さまは、最初の人であるアダムとエバに対して、一つの約束を守るようにお語りになりました。創世記2:16-17「**園のすべての木から取って食べなさい。ただし、善悪の知識の木からは、決して食べてはならない。食べると必ず死んでしまう。**」

エデンの園には、美味しい素晴らしい木の実が一杯ありました。好きなものを食べることが出来ました。この時は、お肉を食べる必要もありませんでした。

だからアダムさんもエバさんも、神さまが「善悪の知識の木の実を食べてはならない」と語られたことを、まったく気にすることなく、過ごしていました。

しかし、サタンである蛇はエバさんに語りかけます。「**園のどの木からも食べてはいけない、などと神は言われたのか**」と。この時、エバさんは蛇に答えます。「**わたしたちは園の木の果実を食べてよいのです。でも、園の中央に生えている木の果実だけは、食べてはいけない、触れてもいけない、死んではいけないから、と神様はおっしゃいました**」と。

神さまは、「園のすべての木から取って食べなさい。ただし、善悪の知識の木からは、決して食べてはならない。食べると必ず死んでしまう」と語られたのであり、「園の中央に生えている木の果実だけは、食べてはいけない、触れてもいけない、死んではいけない」とは語られませんでした。エバは、蛇に言われて、意識してしまったのです。私たちは、人に言われれば、今までまったく気にしていなかったことでも、意識してしまいます。他のことを行わなければならないのに、手がつかなくなります。ここにサタンのたくらみがあります。この時、蛇であるサタンはさらに語ります。「**決して死ぬことはない。それを食べると、目が開け、神のように善悪を知るものとなることを神はご存じなのだ**」と語り、エバは気になっていたそれを食べてしまいます。アダムもエバから受け取り、食べてしまいます。

サタンは、このようにして、私たちに巧みに語りかけます。私たちに罪を犯させます。私たちは、約束や決められたことは、正しく理解しておかなければ、こうした悪巧みに惑わされます。だからこそ、私たちは神の御言葉である聖書を読み続け、学び続けることが大切です。

お祈りします。

神さま、アダムさんとエバさんが蛇に騙されて罪を犯したように、サタンは私たちにも、罪を犯させようとたくらみます。神さま、どうか、私たちを守って下さい。罪を犯すのでは無く、神さまの子どもとして歩むことができるように罪から守って下さい。

このお祈り、イエスさまのお名前によって、お祈りします。 アーメン

神さまは、私たちを、神のかたち、神に似せてお造り下さいました。だからこそ、神さまは、すべての中で、私たち人間を特別に愛してくださいます。だからこそ、神さまは、みんなのことが大好きです。だからこそ、最初に人を造られた時、アダムさんとエバさんですね。神さまと交わり、礼拝することによって、いつまでも生きることが出来るようにして下さいました。

そして、神さまはアダムさんに一つだけ、お約束をしました。

創世記2:16-17「園のすべての木から取って食べなさい。ただし、善悪の知識の木からは、決して食べてはならない。食べると必ず死んでしまう。」

先週、お語りしたように、初めは、まったく気にしないで暮らしていました。善悪の木以外に、多くのおいしい食べ物が一杯あったからです。

しかし、サタンのつかいである蛇が現れ、エバさんを誘惑し、そしてアダムさんも、善悪の知識の木の実を食べてしまいました。神さまは「食べると必ず死んでしまう」と語られていましたが、アダムさんとエバさんは、すぐに死ぬことはありませんでした。しかし、天国で永遠に生きることができなくなりました。いつか死んでいくのですね。

アダムさんとエバさんから始まった私たち人間の歴史が、続いています。しかし、生き続けている人はいません。普通に生まれ、普通に死んでいきます。初めの頃は、1000年近く生きていた人もいましたが、モーセさんの頃からは、長くても120年位で死んでいきます。

最初にアダムさんとエバさんが、神さまとの約束を破ったため、みんな死んでいきます。みんなも、まだ子どもで、長い間生きることが出来ますが、いつまでも生きることはできません。

しかし、神さまは、みんなが死んでいくことを悲しんでおられます。だからこそ、私たちが生きることが出来るように、神の御子であるイエスさまを、お与え下さいました。イエスさまが、私たちのかわりに、神さまとの約束を完全に守って下さり、私たちの代わりに十字架で死んで下さったからこそ、私たちは、生きることが出来るようになりました。

イエスさまを信じる人は、死んでも、よみがえって、天国でいつまでも生きることが出来ます。

お祈りします。

神さま、私たちは、どうしてもウソをついたり、悪いことをして、罪を犯してしまいます。それでも、神さまは、私たちが大好きで、私たちを救うために、イエスさまをお与え下さいました。ありがとうございます。

どうか、イエスさまを信じて、救いをお与え下さい。

このお祈り、イエスさまのお名前によって、お祈りします。 アーメン

今日は、楽しいお泊まり会がありますが、朝の礼拝はいつものとおり行います。

神さまによって創造された最初の人、アダムさんとエバさんは、罪を犯し、それ以後、みんな死ぬこととなりました。先生も、みんなも、まだ長いですが、やがては死にます。

イヤだな、死にたくない、と思う人も多くいます。おじいさん、おばあさんになったから、「もういつ死んでも良い」と思えるかと言えば、いつになっても死ぬのはイヤです。怖いのですね。

でも、みんなのことが大好きな神さまも、みんなが死んでいくことを悲しんでおられます。死んで欲しくない、と思っておられます。そのため、みんなが死ぬことがないように、前もって決めて下さいました。それは、神さまを信じる人のみんな、教会に来る人のみんなが、救われ、天国での喜びが与えられるようにして下さいました。

この時、私たちが住むこの世界をちゃんと計画をして下さり、私たちが生きていくために、必要を備えて下さいます。きょうも、夕方からお泊まり会を行いますが、計画して、準備していなければ、みんな困ってしまいます。そのために、先生たちは、前もって準備して下さいました。それと同じように、神さま、みんなが生きていくため、そして天国に行くために、はじめから終わりまで、ちゃんと計画して下さいました。

私たちが生きていくことが出来るのは、神さまがちゃんと私たちが必要なことをすべて知っておられ、準備して下さいているからこそです。

それでも、私たちは、毎日、何が足りない、これが欲しいと思いますが、こういうとき、神さまが備えて下っていただければ与えられます。そのために、神さまは「お祈りしなさい」と、お語りくださいます。

お祈りしましょう

神さま、神さまが私たちを愛して下さい、私たちが生きていくために、すべてを準備して下さいますことに感謝します。どうか、これからも、私たちを守って下さい。

今日のお泊まり会も、神さまと一緒にいてくださり、守って下さい。楽しい時としてください。

このお祈り、イエスさまのお名前によって、お祈りします。 アーメン

先週、お泊まり会を行いました。非常に楽しい時を過ごすことが出来ました。神さまと一緒にいて下さるからこそ、プールでもすべてが守られました。神さまはみんなのことが大好きだからです。それは、神さまが、いつでもみんなと一緒にいて下さり、守って下さっているからです。

私たちは神さまにお祈りすることが許されています。それは神さまが、教会に来る一人ひとり、そして神さまにお祈りする一人ひとりを、神さまの子どもとして下さっているからです。メッセージの題では「救いを予定されている」ということになります。

聖書の御言葉では、このように語られています。お聞き下さい。マタイ 7:7~11 「求めなさい。そうすれば、与えられる。探しなさい。そうすれば、見つかる。門をたたきなさい。そうすれば、開かれる。だれでも、求める者は受け、探す者は見つけ、門をたたく者には開かれる。あなたがたのだれが、パンを欲しがると自分の子供に、石を与えるだろうか。魚を欲しがると、蛇を与えるだろうか。このように、あなたがたは悪い者でありながらも、自分の子供には良い物を与えることを知っている。まして、あなたがたの天の父は、求める者に良い物をくださるにちがいない」。

神さまは、教会に集うみんなを、そして神さまを信じるすべての人を、神の子どもとして下さいます。みんなのお父さん、お母さん、そして家族の人たちは、時には怒ることもあるかもしれませんが、しかし、いつでもみんなを守ってくれます。愛していてくれます。それと同じように、神さまは、みんなのことが大好きです。だからこそ、救って下さり、守って下さいます。

お祈りしましょう。

神さま、神さまが、私たち一人ひとりを覚えて、神の子どもとして下さり、ありがとうございます。私たちは、神さまを忘れることがあっても、神さまは私たちのことを覚え、見守って下さっていることに感謝します。

だからこそ、私たちがいつでも神さまを覚え、神さまに感謝することができますように、苦しい時でも、神さまにお祈りしてお願いすることができるようにしてください。

そして、神さまを信じて、神さまの子どもとして、喜びをもって、毎日を暮らすことができるようにしてください。

このお祈り、イエスさまのお名前によって、お祈りします。 アーメン

神さまは、天地万物を作られ、最後に人間を神のかたち、神に似せておつくり下さいました。神さまは人を、一番愛しておられます。

しかし、最初の人であるアダムさんとエバさんは、罪を犯しました。罪の結果は、死です。だから、アダムさんとエバさんから生まれてきた人たち、そしてみんなも、いつかは死ぬこととなります。

それでも神さまは、人間が大好きでした。みんなのことも大好きです。だからこそ、死ぬことなく、天国で生きることが出来るように、お選び下さいました。神さまを信じる人は、みんな救われます。

しかし問題があります。神さまは「罪を犯した者は必ず死ぬ」とお語りになりました。人を救いに選ばれても、罪の償いをしなければなりません。そのために、神さまが計画して下さいましたのが、神の子であるイエス・キリストを人としてお遣わしく下さることでした。イエスさまは、私たちが神の子として相応しい生活を、私たちに代わって行って下さいました。その上で、私たちが追うべき罪の罰を引き受けて下さいました。イエスさまは、神の子どもだからこそ、罪が無く、私たちの罪を代わりに背負って下さることもお出来になるのです。

そしてキリストが私たちの罪を背負われるために、十字架にお架かり下さいました。そしてイエスさまは私たちの代わりに十字架に死にました。でも三日目の朝に甦って下さり、私たちを天国に迎え入れるために、天に昇って行かれました。

イエス・キリストが私たちを救うために神さまでありながらも、人となられたことにより、私たちは救われ、罪がなかったごとくに、神の子どもとされて、天国での生命が約束されています。

だからこそ、教会において一番大切なことは、イエスさまが私たちの代わりに十字架に架かって、私たちの救いを完成して下さいましたということです。

このイエスさまが、今も天国において、聖霊をとおして、いつも私たちと一緒にいて下さり、見守っていて下さいます。

お祈りしましょう

イエスさま、私たちの救いのために、人となり、十字架の死と復活を行って下さり、ありがとうございます。どうか、いつも私たちがイエスさまと一緒にいて、救いの喜びをお与え下さい。

このお祈り、イエスさまのお名前によって、お祈りします。 アーメン

イエスさまは、真の神であり、真の神の子でした。だから聖書を読む時、天地創造の最初から出てくることが分かります。「イエス」という名は出て来ません。しかし、天地創造の時、神は、世界をどのように造られたかと言いますと、言葉を発せられることにより、天地創造が行われて行きました。6日間でしたね。6日目の最後に、神のかたち、神に似せて人間が造られました。実は、この言葉を発するのは、御子であるイエスさまの働きです。ヨハネによる福音書の最初に「**初めに言があった。言は神と共にあった。言は神であった。この言は、初めに神と共にあった。万物は言によって成った。成ったもので、言によらずに成ったものは何一つなかった。**」(1:1~3)と語られているのは、イエスさまのことを語ります。

そしてこのヨハネ福音書ではさらに「**言は肉となって、わたしたちの間に宿られた**」(1:14)と語られます。イエスさまが、人となってお生まれになったことを語ります。

なぜ、神であるイエスさまが、人としてお生まれになる必要があったのでしょうか？

それは、私たちが死ぬからです。神さまは、人間を大切な存在としてお造り下さいました。だからこそ、神さまは私たちをも愛していて下さいます。私たちのことが大好きです。そのため、私たちが、死んでいくままにしておきたくなかったのです。そのために、イエスさまが、人となる必要がありました。

それは何のためかと言えば、私たちの代わりに十字架に架かって苦しみ、死ぬためです。イエスさまは、私たちの罪の刑罰としての死を、イエスさまご自身が背負うために、人としてお生まれ下さったのです。

イエスさまは、30歳位の時から3年間、お弟子さんたちと宣教活動を行われましたが、その間、ずっと、十字架で死ぬ日のことを覚えながら、歩んで下さいました。それだどれだけ苦しかったことでしょうか。しかし、イエスさまは、私たちのことが大好きだからこそ、私たちのために十字架の道を歩み、死を遂げて下さいました。

神の子であるイエスさまがお生まれ下さった。そして、十字架に架かって下さったからこそ、私たちは、救われ、天国に行くことが出来ます。イエスさまを信じて、感謝して、ありがとうということが出来るようになって頂きたいと思います。

お祈りします。

イエスさま、私たちのために、人としてお生まれ下さり、そして私たちのために、十字架で死んで下さり、ありがとうございます。私たちのために、死から甦って下さり、天国に行って下さったことに、ありがとうございます。

私たちも、イエスさまを信じて、天国に行くことができるように、してください。

このお祈り、イエスさまのお名前によって、お祈りします。 アーメン。

イエスさまは、私たちが神の子どもとして救って下さるために、クリスマスの日にとしてお生まれ下さいました。イエスさまは、神さまですから、洗礼を授かる必要はありませんが、宣教活動に入られる時に、洗礼者ヨハネから洗礼を受けられました。この時、

天が開け、聖霊が鳩のように目に見える姿でイエスの上に降って来た。すると「あなたはわたしの愛する子、わたしの心に適う者」という声が、天から聞こえた(ルカ3:22)。

つまりイエスさまは、父なる神さま、聖霊なる神さまと共に、神さまとしての交わりの中にあります。三位一体なる神さまです。

そして、最初にペトロとアンデレ、ヤコブとヨハネ、4人の漁師たちです(ルカ5章)。そして徴税人レビとしてのマタイも加え、12人を弟子として選ばれます。それは、ペトロとアンデレ、ヤコブとヨハネ、フィリポ、バルトロマイ、マタイ(福音書記者)、トマス(不信仰者)、アルファイの子ヤコブ、熱心党シモン、ヤコブの子ユダ、裏切り者イスカリオテのユダの12名です。イエスさまが十字架に死に、甦られた後、天に上って行かれた時、12人の弟子たちが中心に、教会が立てられ、世界に広められていきます。

でも、神であるイエスさまが、宣教を行う時、人の手を借りる必要はありません。しかし、イエスさまは弟子を取られます。なぜでしょうか？

それは、神さまは、宣教する時、人をお用いになられるからです。だからイエスさまは、十字架の死と復活を遂げられ、天に昇って行かれる時、このようにお語りになりました。

「だから、あなたがたは行って、すべての民をわたしの弟子にしなさい。彼らに父と子と聖霊の名によって洗礼を授け、あなたがたに命じておいたことをすべて守るように教えなさい。わたしは世の終わりまで、いつもあなたがたと共にいる」(マタイ28:19~20)。

神さまのことを人に伝える、イエスさまのことを信じていることを人に伝えることを、私たちは神さまから求められています。しかし、これは私たちが一生懸命行えば可能なのではなく、イエスさまと一緒にいてくださる、神さまに助けを求めることによって、伝道も出来るようになります。

私たちも、すでにイエスさまの弟子とされています。「教会に行こう」と誘うのは、勇気がいることかも知れませんが、イエスさまはいつも一緒にいてくださいます。

お祈りしましょう。

イエスさま、イエスさまが弟子を作られ、伝道することをお教え下さいました。私たちもイエスさまの弟子として、クリスチャンであること、教会に来ていることを証しして、家族や友だちを誘うことができるようにして下さい。

このお祈り、イエスさまのお名前によってお祈りします。 アーメン。

神さまはみんなのことだ大好きだからこそ、イエスさまが人間となりました。

しかし、お父さんであるヨセフさん、お母さんであるマリアさんがいるのに、「イエスさまが、本当に神さまなの？」と思う人が大勢います。そのため、イエスさまは、自分が神の御力を持っておられることを、奇蹟によって明らかにされました。

「奇蹟」とは何かと言えば、私たちでは不可能だ、出来ないと思うことを、行うことです。一つは自然を支配しておられます。今日も台風が近づいているようですが、私たちはどうすることもできません。しかしイエスさまは、大嵐の中、船に乗っておられ、困っていたお弟子さんたちの前で、歩いて湖の上を歩かれ、そして風を叱られると、大風はおさまり、穏やかになりました。

また、イエスさまは多くの病気の人たちを癒やされました。目が見えない人の目にどろをぬるることにより、目が見えるようになりました。生まれつき寝たきりの人に対して、「起きよ」と語られることで、歩けるようになりました。

さらにはラザロという人は死んでいました。死んで4日も経っていましたから、お姉さんのマルタさんもマリアさんも諦めていました。しかし、イエスさまが到着され、遺体が葬られた墓に行かれると、「ラザロ、出て来なさい」と大声でイエスさまが叫ばれると、ラザロさんは出て来たのです。

こうしたことのひとつひとつが、「奇蹟」と呼ばれます。私たち人間では不可能なことを、イエスさまは行われました。それは、イエスさまが神さまだからこそ、出来たのです。

そして、イエスさまの奇蹟の一番大切なことがあります。それが「十字架」です。イエスさまは逮捕されて、裁判にかけられて死刑判決を受けました。そして十字架に架けられて苦しみます。イエスさまも一人の人間だ、弱かったんだ、とみんな思いました。しかし、イエスさまが本当の神さまであることは、三日目の朝に明らかになります。イエスさまが死から甦られた、生き返られたからです。だれも出来ないこと、その復活を、イエスさまは神さまだからこそ、お出来になるのです。

そして、イエスさまこそ神さまであると信じる私たちに対して、神さまは、あなたもイエスさまのように復活の体が与えられ、天国に行くことが出来ますよと、約束して下さい。だからこそ、私たちはイエスさまを神さまと信じて、天国の希望をもって生きることが出来ます。

お祈りしましょう。

イエスさま、イエスさまがまことの神さまだからこそ、私たちを救う力を持っておられます。病人を癒やされ、死んだ人を甦らせたように、私たちにも救いをお与え下さり、天国の喜びに満たして下さい。

このお祈り、イエスさまのお名前によってお祈りします。 アーメン。

イエスさまは、みんなのことが大好きです。大好きだからこそ、神さまでありながらも、私たちが救うために人となって下さいました。イエスさまが、私たちが救うために、十字架にお架かり下さり、私たちに代わって死んで下さいました。しかし、十字架だけを、パッと行っても、イエスさまが何のために十字架に架かれたのか分かりません。「あいつは悪いやつだ、自分が王になろうとした」とバカにされるだけです。

そのためイエスさまは、ご自身が神であることを、奇蹟を行うことにより、人々に示されました。そのことを先週学びました。それだけではなく、イエスさまご自身が、旧約聖書において約束されていたメシア、救い主であることを、みんなにお語り下さり、だからこそ、奇蹟のように人を癒やしたり、生き返らせることも可能なことを、お語り下さいました。

そしてイエスさまが語られたことの一番大切なことは、イエスご自身が十字架に架かって死ぬこと、死んでから三日目の朝に生き返ることです。このままだと、みんな死んで行く、滅んで行く、そのことを神さまであるイエスさまは悲しまれておられます。だからこそ、私たちに代わって、罪の罰を負って、イエスさまが十字架で死んで下さったのです。その苦しみ、死は、私たちのためでした。そして、イエスさまを信じる人には、罪の赦しが与えられ、救われることを、お語り下さいました。

そして、イエスさまは、死に対しても勝利を遂げられ、真の神であることをお示しになるために、生き返られました。

イエスさまが語られ、約束して下さいったように、イエスさまの十字架と復活を信じ、救い主として信じる人に対して、神さまは、罪の赦し、そして救いをお与え下さいます。

私たちに与えられた喜びは、イエスさまによって罪が赦され、そして天国における永遠の祝福が約束されていることです。

先生のお母さんは、この間、90歳で亡くなりました。寂しいです。でも、イエスさまを信じているからこそ、天国でもう一度会うことが出来ます。だからこそ、寂しいですが、それ以上に、もう一度会うことが出来ることを楽しみにしています。

イエスさまを私たちの神として信じることは、私たちにとって喜びです。みんなも、イエスさまを救い主として信じて、一緒に喜んでいたいと思います。

お祈りします。

イエスさま、私たちの救いのために、人となり、イエスさまを信じる人は救われることをお教え下さりありがとうございます。また私たちの救いのために、十字架にお架かり下さり、ありがとうございます。どうか、ここにつどうみんなが、イエスさまを信じて、救いの喜びを一緒にすることができるようにしてください。

このお祈り、イエスさまのお名前によってお祈りします。 アーメン

神の御子であるイエスさまが、人となられ、洗礼者ヨハネより洗礼を授かり、それから宣教活動を始められました。主イエスは最初に12人を集めて弟子としました。奇蹟を行うことにより、御自身が真の神の御子であり、救い主としての御力をもっておられることを、弟子たちや人々に示されました。そしてメッセージを語られます。たとえ話を語られることにより、救われて天国に入るとはどれだけ素晴らしいことであるかということをお教えられ、また信じる者は救われることを語られていきました。

しかし、神さまであるイエス様が人となられたことの一番大切な働きは、私たちの罪のために十字架に架かって死ぬことでした。イエスさまはそのことを十分に知っておられ、お弟子さんたちにも語られます。それも3回もです。最初、イエスさまは「人の子は必ず多くの苦しみを受け、長老、祭司長、律法学者たちから排斥されて殺され、三日目に復活することになっている」（ルカ9:22）と語られました。

2回目、イエスは弟子たちに言われた。「この言葉をよく耳に入れておきなさい。人の子は人々の手に引き渡されようとしている」。弟子たちはその言葉が分からなかった。彼らには理解できないように隠されていたのである。彼らは、怖くてその言葉について尋ねられなかった（9:43-45）。

そして3回目です。イエスは、十二人を呼び寄せて言われた。「今、わたしたちはエルサレムへ上って行く。人の子について預言者が書いたことはみな実現する。人の子は異邦人に引き渡されて、侮辱され、乱暴な仕打ちを受け、唾をかけられる。彼らは人の子を、鞭打ってから殺す。そして、人の子は三日目に復活する。」十二人はこれらのことが何も分からなかった。彼らにはこの言葉の意味が隠されていて、イエスの言われたことが理解できなかったのである。

聖書では、時たま、おなじことを2回、3回と繰り返して語ります。それは大切なことだからです。イエスさまが3回も、十字架に架かって死ぬことを予告されたのは、それがとても大切なことだからです。イエスさまが十字架に死に、三日目に甦られたのは、ユダヤ人たちとの戦いに負けた結果ではなく、神さまが最初から御計画されていたことなのです。それは、私たちが救われて、天国に行くために必要なことだったからです。

お弟子さんたちも、イエスさまが十字架に架かって死なれ、そして三日目に復活されて、再会した時に、イエスさまが語られたことを理解することが出来たのです。みんなも、イエスさまが私たちのために十字架に架かって下さったのだ、ということをお理解して、信じていただきたいと思えます。

（お祈りします）

イエスさま、私たちに救うために、十字架に架かって死ぬために、人となってくださり、ありがとうございます。弟子たちのように疑うのではなく、信じるができるようにしてください。

このお祈り、イエスさまのお名前によってお祈りします。 アーメン。

イエスさまは、私たちが大好きだからこそ、人としてお生まれになられ、そして十字架に架かるために、都であるエルサレムに上ってこられました。十字架の死と復活（甦り）が大切なことだから、イエスさまは3度も、お弟子さんたちにお話ししたことを先週お話ししました。しかし、お弟子さんたちは、イエスさまの話しを理解することが出来ませんでした。

エルサレムには、ソロモンが作った大きな神殿がありました。誰もが、こんな立派な建物は、いつまでもあるものだと思っていました。そして神殿に来ては、神を礼拝し、いにえを献げていました。

そして、多くの人たちが集まる所には、屋台が出ます。両替人もいました。神殿にきた人たちは、礼拝に必要なものが手に入るし、非常に便利だと思っていたかと思います。

しかしこれを見たイエスさまは、**神殿の境内に入り、そこで売り買いをしていた人々を皆追い出し、両替人の台や鳩を売る者の腰掛けを倒された。そして言われた。「こう書いてある。『わたしの家は、祈りの家と呼ばれるべきである。』**

ところが、あなたたちは、

それを強盗の巣にしている」（マタイ21:12～13）。

神殿は神さまを礼拝する場所であり、今の教会です。神さまを礼拝する場所は、大切なところだから、便利だからといって商売してはダメですよ、と語られたのです。

それだけではありません。**イエスが神殿の境内を出て行かれると、弟子たちが近寄って来て、イエスに神殿の建物を指さした。そこで、イエスは言われた。「これらすべての物を見ないのか。はっきり言うておく。一つの石もここで崩されずに他の石の上に残ることはない。」**（マタイ24:1～2）。イスラエルの人々は、神殿が壊れることなど信じられません。しかし、イエスさまは、本当に礼拝する場所は、神殿という建物ではなくて、救い主であるイエスさま御自身であることをお語りになりました。イエスさまは逮捕されて、十字架で殺されます。しかし3日目の朝に甦られます。

私たちは、この教会で礼拝を献げていますが、ここで信じているのはイエスさまです。イエスさまこそが、神さまである、救い主であることを信じています。イエスさまを礼拝し、信じる場所として、私たちは教会に来ています。

私たちは、イエスさまこそが救い主であること、そしてイエスさまを礼拝するために、今日も、私たちは教会に集められていることを感謝して頂きたいと思います。

（お祈りします）

イエスさま、イエスさまが、十字架の死と復活を行っていただいたからこそ、私たちは救われました。ありがとうございます。イエスさまを礼拝すること、教会に来ることが、楽しく、喜びとなるようにしてください。このお祈り、イエスさまのお名前によってお祈りします。 アーメン

イエスさまは、弟子たちと共に、十字架に架かれるために都エルサレムに来ております。弟子たちは、イエスさまが十字架に架かって死ぬこと、三日後に甦ることを約束されましたが、理解できませんでした。

そうした中、イエスさまは弟子たちを集め、過越の食事を取られます。過越祭という毎年行われるお祭りであり、お弟子さんたちは、毎年行われる普通のことと思っていたことかと思えます。過越の祭とは、イスラエルの人たちがエジプトで奴隷であった時に、神さまはモーセを指導者として立てて、王であるファラオの前で、10の奇蹟を行うことにより、奴隷から解放されたことをお祝いするお祭りです。主なる神さまが、その御力で救い出して下さったことを忘れないために行うお祭りです。

しかし、イエスさまは、お弟子さんたちに、この食事は、イエスさまが十字架に架かることが、みんなの救いのためであることを覚えるための食事であることを伝えます。だから、イエスさまの十字架と復活の後は、イエスさまの十字架を覚えて、このお祭りを守ります。今日はありませんが、月に一度、月の最初の日曜日には、聖餐式が行われます。それがこのお祭りです。まだ、みんなは信仰を告白していませんので、一緒に食べたり飲んだりすることはできませんが、信仰を告白した人たちは、みんな、パンを食し、ぶどうジュースを飲みます。

これは、イエスさまが十字架にお架かりになられ、私たちの救いのために死んで下さったことを忘れないためです。そのため、イエスさまは、この最後の晩餐において、パンをとって、「これはわたしの割かれた体である」とお語りになられ、ワインをとって、「これはわたしの流された血である」とお語りになりました。お弟子さんたちは、この時、イエスさまが何を語られているのか分かりませんでした。その後、イエスさまが逮捕され、十字架で死んで行かれ、三日目に甦られた時、聖餐式において、イエスさまの十字架を語り継いで、そして忘れてはならないことなんだ、ということがわかったのです。

私たちも、説教で、イエスさまが十字架で死んで下さり、甦って下さったから、救われたんだ、ということが語られますが、ピンと来ない時もあります。しかし、パンと赤いワインを見て、食し、飲むとき、私たちは、イエスさまの十字架を思い出すのです。だからこそ、この時以来、教会では、繰り返し聖餐式を行います。みんなも、イエスさまのことを信じて、信仰告白をすることによって、一緒に聖餐式に参加できる日がくることを、待っています。

イエスさま、私たちの救いのために、十字架に架かり、血を流され、死んで下さり、ありがとうございます。そしてイエスさまは、罪に打ち勝ち、甦って下さいました。だからこそ、私たちも、イエスさまと同じように、甦り、天国での永遠の喜びが約束されています。みんなが、イエスさまの十字架と復活を信じて、信仰を告白することができるようにお導き下さい。このお祈り、イエスさまのお名前によってお祈りします。アーメン

イエスさまは、みんなのことが大好きだからこそ、私たちが救うために十字架にお架かり下さいます。イエスさまは、3人の弟子たちと共に、最後の晩餐を終えて、ゲツセマネという丘に登られ、祈り始められます。イエスさまは、この時に、逮捕され、裁判を受け、十字架の上で死んでいくことを知っておられます。十字架に架かる前の夜です。イエスさまはすごく緊張しておられます。十字架に架かる苦しみを知っておられ、できれば十字架に架かりたくはありません。そのため、父なる神さまに対して、このように祈られます。

「父よ、御心なら、この杯をわたしから取りのけてください」。

杯とは、十字架の苦しみのことを語っています。イエスさまは、神の御子ですが、同時に人間です。苦しみを知っています。だからこそ、苦しみたくないのです。

しかし、イエスさまは、続けて、このように祈られます。

「しかし、わたしの願いではなく、御心のままに行ってください」。

イエスさまは、父なる神さまの御心、つまり、私たちが救うために何が必要なのかを示して下さるように祈ります。イエスさまは、御自身が十字架に架かって苦しみ、そして死を遂げられることを知っておられ、避けて通ることができないことも知っておられました。

だからこそ、イエスさまの祈りは、非常に熱のこもった祈りとなります。聖書には、「汗が血の滴るように地面に落ちた」とも語ります。

イエスさまは、教会に来ているみんなのことが大好きだからこそ、自分は苦しんででも、みんなを救うために、十字架の道を歩いて下さいました。

私たちは、十字架に架かられ、死を遂げられたイエスさまを信じる時、罪が赦され、神の子とされます。私たちの救いのために十字架に架かられたイエスさまを、信じていただきたいと思います。

お祈りします。

イエスさま、私たちが救うために、十字架の上で苦しみ、死を遂げて下さり、ありがとうございます。そして、私たちが救うために、死から甦って下さったことに感謝します。

どうか、私たちが、イエスさまを救い主として信じることができるように、お導き下さい。このお祈り、イエスさまのお名前によって、お祈りします。 アーメン

イエスさまは、みんなのことが大好きです。そして、みんなのことが大好きだからこそ、イエスさまは、逮捕されて十字架に架けられます。

最後の晩餐が終わり、イエスさまは、ペトロ、ヤコブ、ヨハネを伴い、ゲツセマネで祈っておられました。

この時に、イエスさまのもう一人の弟子イスカリオテのユダが、ユダヤ人たちと共にやってきます。ユダは、イエスさまの弟子として、イエスさまにも気に入ってもらい、大切な働きである弟子たちの会計を扱うことが委ねられていました。ですから、最後の晩餐でも、イエスさまの隣に座っていたと考えられています。しかし、ユダは、イエスさまを裏切ります。お金をもらって、ユダヤ人たちがイエスさまを逮捕することができるように、手伝います。

イエスさまは、逮捕されること、十字架に架かり苦しみ、死んでいくことを、知っています。イエスさまは逃げようと思えば、逃げられますが、逃げられることはありません。逮捕されて、十字架に架かることが、大切なことを知っておられるからです。そればかりか、ユダが裏切ることも知っておられます。そのため、最後の晩餐の時に「はっきり言っておくが、あなたがたのうちの一人で、わたしと一緒に食事をしている者が、わたしを裏切ろうとしている」と語られ、ユダを指名して「人の子（イエスさま）を裏切るその者は不幸だ。生まれなかった方が、その者のためによかった」と語られました。

そのイスカリオカのユダが、祈っているイエスさまの所に来て、イエスさまにハグします。ユダヤ人たちに、イエスさまが誰であるか示し、逮捕させる合図でした。

ユダは、この後、イエスさまが逮捕され、裁判を行っている頃、自分が行ったことが悪いことだったことがわかりました。悪いことを行った時、神さまは「ごめんなさい」と言えば赦して下さいます。しかし、ユダさんは、神さまに謝ることもしないで、死んでしまいました。イエスさまは、このことを知っておられ、悲しまれていたのだと思います。

そしてイエスさまは、ユダヤ人たちに逮捕された後、裁判にかけられ、そして翌日の朝には、十字架に架けられます。イエスさまは、わたしたち、そしてみんなを救い、天国に連れて行くために、十字架にお架かりくださいました。

私たちのことも、みんなのこともすべてを知っておられるイエスさまは、いま、天国におられます。そしてみんなが天国に来ることができるよう、祈っておられます。

私たちのために、逮捕され、苦しまれ、十字架で死んで下さったイエスさまに、感謝して、信じて頂きたいと想います。

お祈りします。

イエスさま、私たちを愛して下さい、私たちのために、逮捕され、十字架にお架かり下さり、ありがとうございます。私たちも、イエスさまを信じることができるよう、祈って下さい。このお祈り、イエスさまのお名前によってお祈りします。アーメン

イエスさまは、みんなのこと、そして教会に集う私たちのことが大好きです。だから、十字架に架かることから逃げ出すことはされませんでした。イエスさまにとって大切なことは、私たちを救うこと、滅びではなく、命が与えられ、天国に生きることを、望まれているからです。

このことを象徴することが、イエスさまが十字架に架かっておられる時にありました。イエスさまが十字架に架かれた時、イエスさまの右に一人、左にも一人、十字架に架けられた人がいました。極悪人です。何人もの人たちを殺したのではないのでしょうか。ルカによる福音書には、次のように語られています(23:35~43)。

民衆は立って見つめていた。議員たちも、あざ笑って言った。「他人を救ったのだ。もし神からのメシアで、選ばれた者なら、自分を救うがよい。」兵士たちもイエスに近寄り、酸いぶどう酒を突きつけながら侮辱して、言った。「お前がユダヤ人の王なら、自分を救ってみろ。」イエスの頭の上には、「これはユダヤ人の王」と書いた札も掲げてあった。

十字架にかけられていた犯罪人の一人が、イエスをののじった。「お前はメシアではないか。自分自身と我々を救ってみろ。」すると、もう一人の方がたしなめた。「お前は神をも恐れぬのか、同じ刑罰を受けているのに。我々は、自分のやったことの報いを受けているのだから、当然だ。しかし、この方は何も悪いことをしていない。」そして、「イエスよ、あなたの御国においでのになるときは、わたしを思い出してください」と言った。するとイエスは、「はっきり言うておくれ、あなたは今日わたしと一緒に楽園にいる」と言われた。

イエスさまにとって、どれだけ悪いことをした人であっても、どれだけ他人から嫌われている人であっても、自分では何もできない寝たきりの人であっても、みんな、大好きなのです。だからこそ、自分の罪を受け入れ、イエスさまに「ごめんなさい」と語る時、イエスさまは赦して下さい、天国へと招いて下さいます。

イエスさまは、私たちのことが大好きだからこそ、十字架で苦しみ、死んで下さったことに感謝して頂きたいと思います。そして、イエスさまは、イエスさまのことを信じる人の罪を赦し、天国へと招いて下さいます。

(お祈りします)

イエスさま、私たちのことを愛して下さい、ありがとうございます。

私たちを救い、天国へと招いて下さるために、イエスさまが十字架にお架かりくださり、ありがとうございます。

だからこそ、私たちもイエスさまを愛して、イエスさまを信じることができるようにしてください。

このお祈り、イエスさまのお名前によって、お祈りします。 アーメン

イエスさまは、みんなのことが大好きだから、みんなのために十字架に架かって、苦しみ、死んで下さいました。本当ならば、私たちが受けなければならない苦しみを、イエスさまが、私たちに代わって、背負って下さったのです。

イエスさまが、十字架の上で死んで、そして三日目の朝に甦られたことを語ると、「イエスは、実は死んでいなかったのではないか」と語られることがあります。

しかし、聖書は、イエスさまが死んだことを語ります。

「ユダヤ人たちは、安息日に遺体を十字架の上に残しておかないために、足を折って取り降ろすように、ピラトに願い出た。そこで兵士が来て、……イエスのところに来てみると、既に死んでおられたので、その足は折らなかつた。しかし、兵士の一人が槍でイエスのわき腹を刺した。すると、すぐ血と水とが流れ出た。それを目撃した者が証ししており、その証しは真実である。その者は、あなたがたにも信じさせるために、自分が真実を語っていることを知っている」（ヨハネ19:31～35）。

そしてイエスさまが、墓に葬られたことも聖書は語ります。

「その後、イエスの弟子でありながら、ユダヤ人たちを恐れて、そのことを隠していたアリマタヤ出身のヨセフが、イエスの遺体を取り降ろしたいと、ピラトに願い出た。ピラトが許したので、ヨセフは行って遺体を取り降ろした。そこへ、かつてある夜、イエスのもとに来たことのあるニコデモも、没薬と沈香を混ぜた物を百リトラばかり持って来た。彼らはイエスの遺体を受け取り、ユダヤ人の埋葬の習慣に従い、香料を添えて亜麻布で包んだ。イエスが十字架につけられた所には園があり、そこには、だれもまだ葬られたことのない新しい墓があった。その日はユダヤ人の準備の日であり、この墓が近かったので、そこにイエスを納めた」（19:38～42）。

アニメなどで、正義のヒーロー、ヒロインが死ぬと、みんながっかりするかも知れませんが、しかしイエスさまは、私たちに代わって死んで下さることにより、私たちに喜びをお与え下さいました。それは、十字架の死から三日目の朝に甦る・復活されることによって、はっきりします。

（お祈りします）

イエスさま、わたしたちを救うために十字架にお架かり下さり、ありがとうございます。イエスさまが十字架に苦しみ、死んで下さったからこそ、私たちは同じ苦しみをとおることがありません。イエスさまの十字架の死と復活を、みんなが信じることができるようにしてください。このお祈り、イエスさまのお名前によってお祈りします。 アーメン。

死んだ人が生き返る、ゲームではリセットボタンを押せばすぐに生き返りますが、生きている人間では絶対にありえません。誰もがそう思っています。

イエスさまも、十字架に架けられて死なれました。そして墓に葬られました。弟子たちも、ユダヤ人たちも、みんな「先生は死んだ」、「イエスは死んだ」と思っていました。

そのため、弟子たちと共に歩んできた女性たちは、イエスさまのことをちゃんと葬らなければならないと思い、安息日が明けた日曜日の朝に、イエスさまが葬られた墓に行きました。墓と言っても、大きな横穴が掘ってあり、そこに置かれています。そして入り口は、大きな石でふさいでいました。ですから女性たちは、「だれが墓の入り口からあの石を転がしてくれるでしょうか」と話し合っていました。

しかし、いざ、墓に行ってみると、その大きな石はわきへ転がしてあり、墓が空いていました。女性たちが、墓に入ってみると、白い長い衣を着た若者が座っていました。しかし、肝心のイエスさまの遺体を見つけることが出来ませんでした。そのため、女性たちは、滅茶苦茶、驚きました。

この時に若者が語ります。「驚くことはない。あなたがたは十字架につけられたナザレのイエスを捜しているが、あの方は復活なさって、ここにはおられない。御覧なさい。お納めした場所である。さあ、行って、弟子たちとペトロに告げなさい。『あの方は、あなたがたより先にガリラヤへ行かれる。かねて言われたとおりに、そこでお目にかかれる』と。」

女性たちは墓を出て逃げ去りました。そして震え上がり、正気を失います。しかし、その後、イエスさまが十字架に架かれる以前に話しておられたことを思いだし、そしてイエスさまが甦られたことを理解し、弟子たちにも、そのことを伝えました。

弟子たちも、信じる事ができません。

しかし、復活されたイエスさまは、女性たちに現れ、弟子たちに現れました。最後まで、復活されたイエスさまにお会いすることが出来なかったトマスという弟子は「あの方の手に釘の跡を見、この指に釘の跡を入れてみなければ、また、この手をそのわき腹に入れてみなければ、わたしは決して信じない」と語っていました。しかし、8日の後、イエス様はトマスのいる所にも来られました。そしてトマスに対して「わたしを見たから信じたのか。見ないのに信じる人は、幸いである」とお語りくださいました。

私たちは、イエスさまを目で見ることはできません。本当に復活されたのだろうかと思ってしまう。しかし、イエスさまは神さまです。そして私たちを愛して下さっています。だからこそ、私たちのために十字架において死んでくださり、私たちを救うために、死から生き返ってくださいました。みんなも、みんなのために復活されたイエスさまを信じて頂きたいと思います。

イエスさま、私たちのために十字架に架かり、また生き返ってください、ありがとうございます。どうか、私たちが復活されたイエスさまを信じる事が出来るようにしてください。このお祈り、イエスさまのお名前によってお祈りします。アーメン。

イエスさまが、十字架に架かり、苦しみつつ、死んで下さったこと、そしてイエスさまが生き返って下さったことを学んできています。イエスさまは、私たちのことが大好きだからこそ、私たちを救うために、十字架に架かって下さったのです。

でも、死んだ人が生き返ったことなど、信じることができません。本当なのだろうかと思ってしまう。イエスさまの十字架を見届けていた人たちも同じ思いでした。先週は、墓を見に行った女性たちのこと、そしてその後、復活されたイエスさまにお会いした弟子たちのことを確認しました。今日は、イエスさまのお弟子さんの一人ペトロさんが、復活されたイエスさまとお会いしたとき、どうであったのかを確認したいと思います。

ペトロさんは、イエスさまが逮捕されるすぐ前に、最後の晩餐の時に、イエスさまから言われていました。「あなたは今日、鶏が鳴くまでに、3回わたしを知らないと言うだろう」と(ルカ22:34)。ペトロさんは否定しました。「あなたのことを知らないなどとは決して申しません」と。

しかし、いざイエスさまが逮捕されると、恐ろしくなります。イエスさまが逮捕され、連れて行かれ、裁判にかけられている間、遠くから見守ることしかできません。そうした時に、「あなたもあのイエスの仲間ですよ」と尋ねられた時、ペトロは、それを打ち消します。それも、2度、3度と繰り返します。そうすると、鶏が鳴きます。この時に、ペトロは、イエスさまが語られていた言葉を思い出し、泣きました。

しかし、イエスさまが十字架に架けられることになってからも、ペトロは、分からないように、見守ることしか出来ませんでした。そして、十字架でイエスさまは息を引き取られ、「先生は死んだのだ」と思っていたのです。

そのような時に、女性の弟子たちが戻って来て、イエスさまが生き返ったことを伝えます。ペトロはまっしぐらにイエスさまが葬られた墓に走って行きますが、イエスさまはおられません。イエスさまは生き返ったことを信じようとしますが、まだ疑ってもしました。そのような時に、復活されたイエスさまは、弟子たちの前に現れ、ペトロとも顔をあわせます。ペトロは恥ずかしかったでしょう。隠れたかったでしょう。しかしイエスさまは怒られません。ペトロに対して「わたしを愛しているか」と問われます。ペトロは「はい、主よ、わたしがあなたを愛していることは、あなたをご存じです」と応えます。イエスさまは「わたしの羊を飼いなさい」と応えられます。このことが2度、3度繰り返されます。ペトロは、イエスさまが十字架に架かり、復活されたのは、この自分のためなんだ。イエスさまは自分を愛していて下さることをはっきりと知りました。だからこそ、この後、イエスさまは天に昇って行かれますが、どんだけ苦しくても、イエスさまのことを愛し、証ししていきました。私たちは目では、イエスさまを見ることはできませんが、復活されたイエスさまを信じる時、ペトロのように、大きな力が与えられます。みんなも、復活されたイエスさまを信じていただきたいと思います。(お祈りします)